

村上市景況調査報告

平成26年1～3月期の実績と平成26年4～6月期の見通し

調査時期：2014年3月中旬～2014年4月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 127社（回収率63.5%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社
 〔地区別内訳〕 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

実施機関：村上市商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

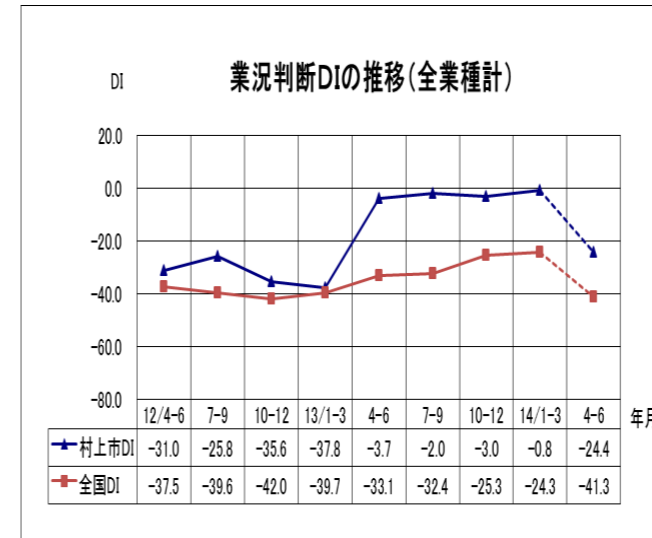
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2014.1～3実績、2014.4～6見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

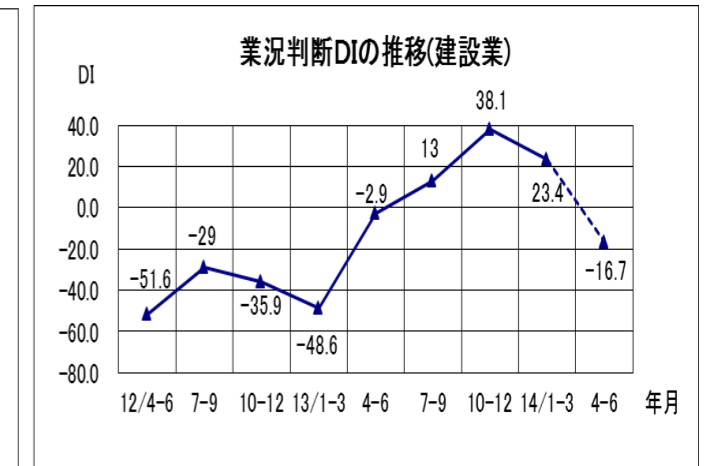
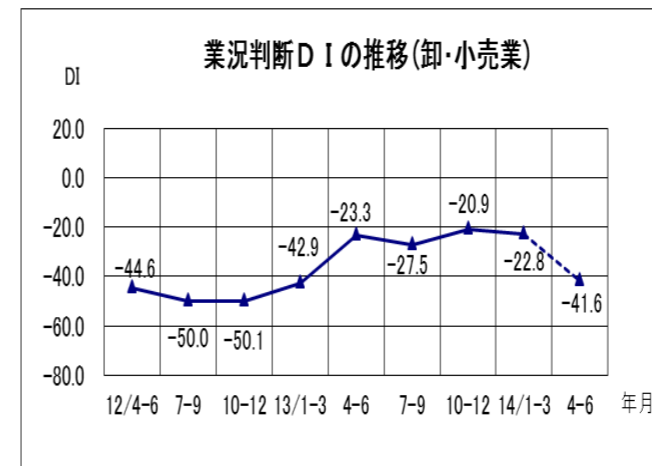
『先行き懸念はあるものの、持ち直している』

■村上市の業況

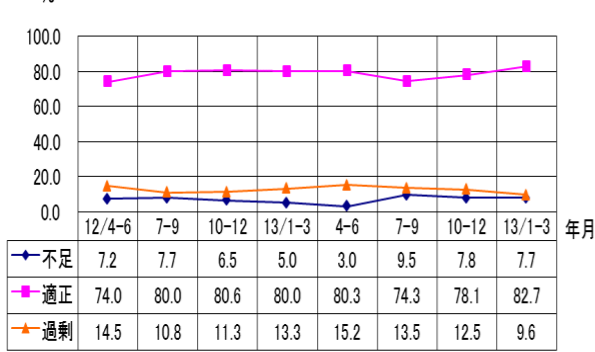


今期（14/1～3月期）の業況判断DI（全業種計）は、前期（13/10～12月期）に比べて2.2ポイント上昇し▲0.8となり、調査開始（08/4～6月期）以来、最高水準となった。また、前年同期に比べ、37.0ポイント、前期における今期予測より11.3ポイント、それぞれ上回った。DIが上昇した要因は、卸・小売業及び建設業を除く全業種でDIが上昇したため。建設業と製造業の下支えにより、4期連続でDIが±0近くで推移している。

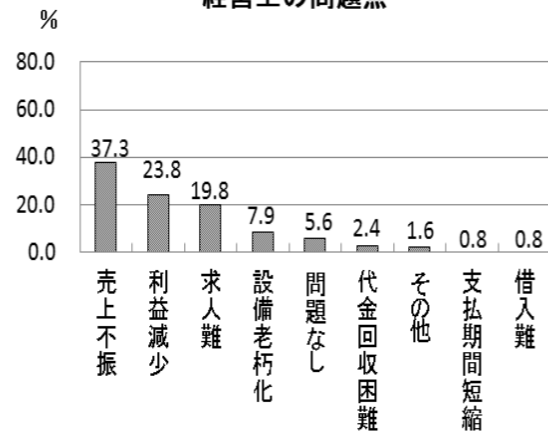
来期（14/4～6月期）については、DIが23.6ポイントの大幅低下で、▲24.4となる見通し。消費税増税前の駆け込み需要に伴う反動減や買い控え、受注はあるが着工の遅れ、競争激化等が懸念材料となり、製造業を除く全業種で低下を予測している。



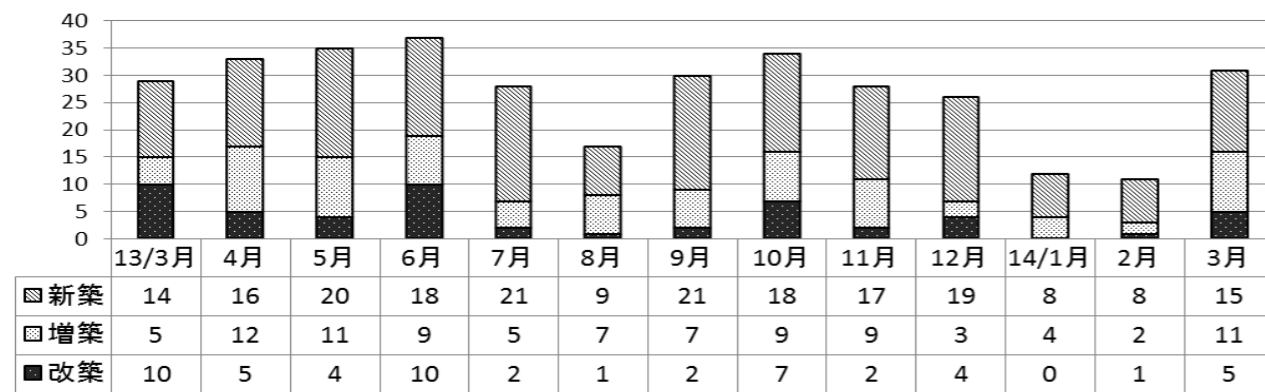
在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



経営上の問題点

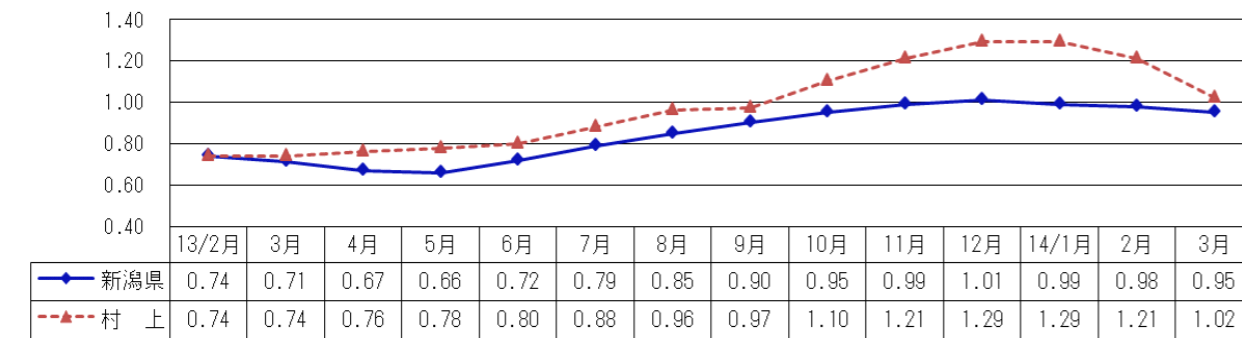


建築確認申請・工事届件数

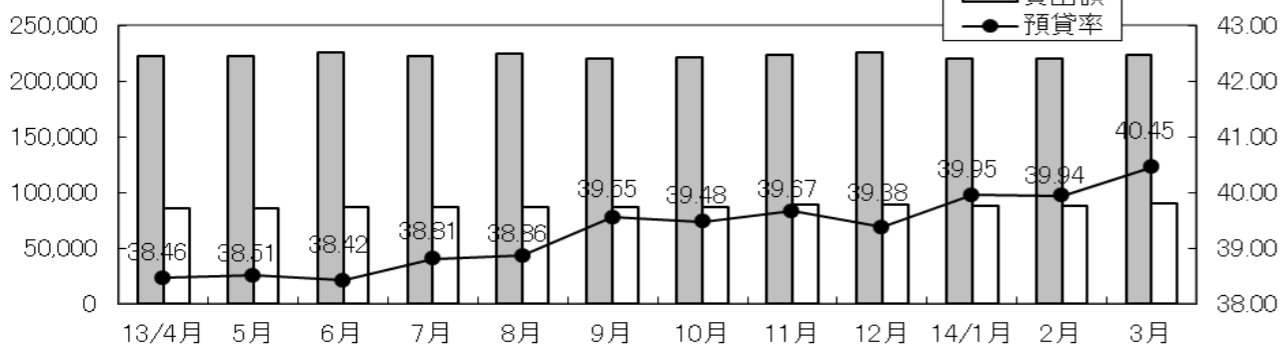


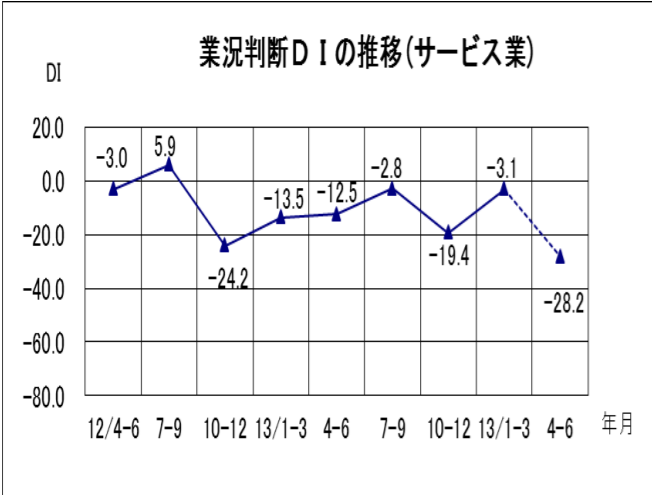
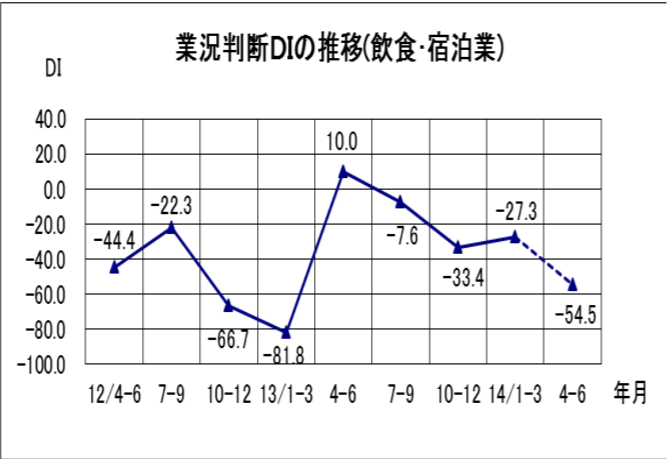
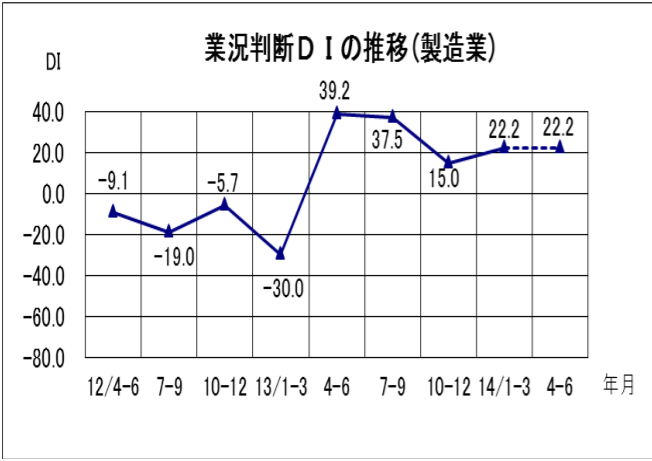
※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

村上職安管内有効求人倍率(パート除く常用)



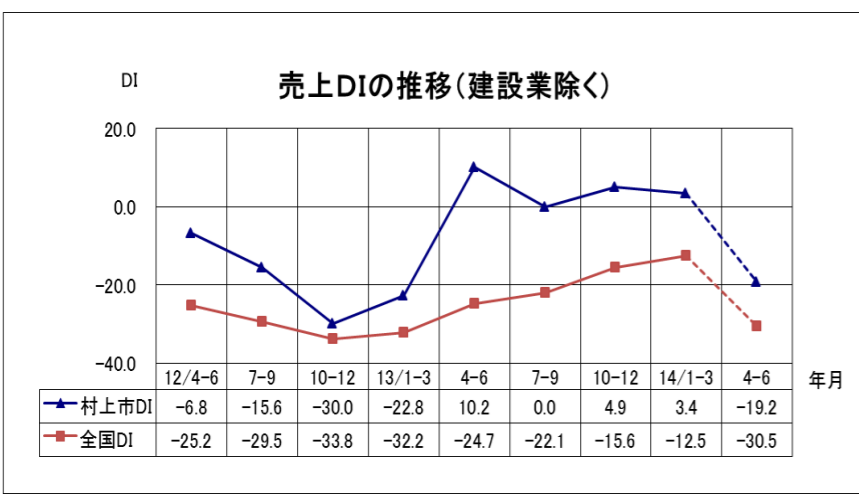
村上市・岩船郡内金融機関預貸状況





今期の業種別業況判断DIは前期比で、飲食・宿泊業が公共工事の影響で宿泊増に繋がったケースや新年会・歓送迎会等の季節的な好要因で6.1ポイント増、サービス業が消費税増税前の駆け込み需要等で16.3ポイント増となった。製造業は駆け込み需要と原材料高騰等が相殺され横這い、卸・小売業と建設業は、それぞれ駆け込み需要の影響を受けたものの売上不振、競争激化、人手不足等によりDIは減少した。

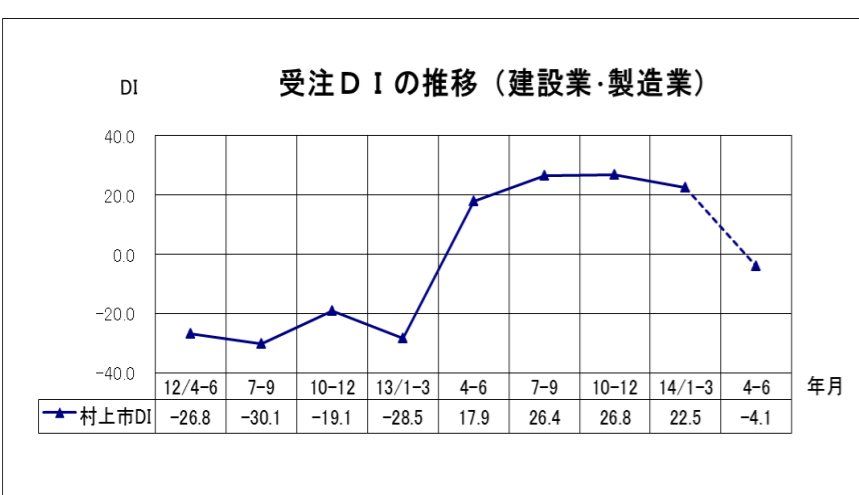
来期については、全業種でDIが低下する見通しで、寄せられたコメントに、増税後の反動減・売上不振(卸・小売業、製造業)、競争激化・受注しても直ぐ着工できない(建設業)、増税分転嫁できない(飲食・宿泊業)、駆け込み受注を確保したがその先冷え込む(サービス業)等があった。



今期の売上DI(建設業除く)は、前期比1.5ポイント低下し、3.4となったが、前期における今期予測より18.2ポイント上回った。前年同期比でも、26.2ポイント上回っている。

全国DIは、前期比3.1ポイント上昇し▲12.5となり、5期連続の上昇。

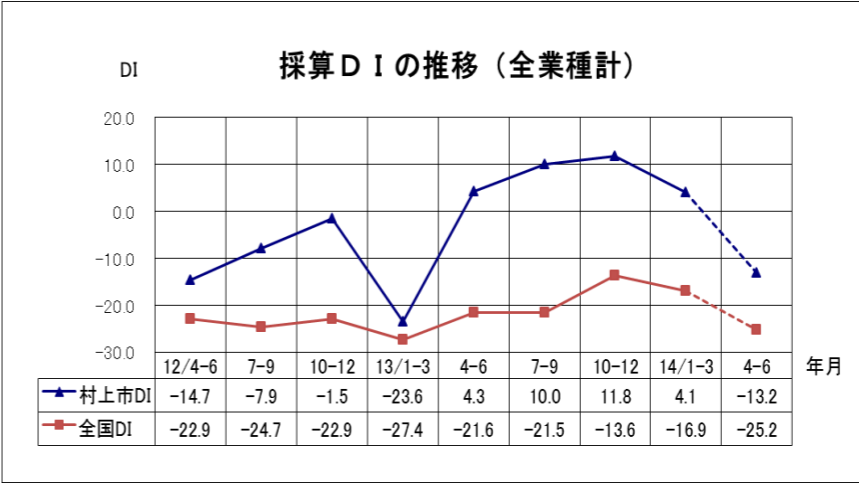
来期については、22.6ポイント低下し、▲19.2となる見通し。全国DIも、18.0ポイント低下し、▲30.5となる見通し。



今期の受注DI(建設・製造業)は、前期比4.3ポイント低下し、22.5となったが、前期における今期予測より11.0ポイント上回った。

DIは4期連続で20前後を推移。
 〈DI内訳〉 前期 今期
 建設業 16.7 → 19.3
 製造業 38.1 → 29.5

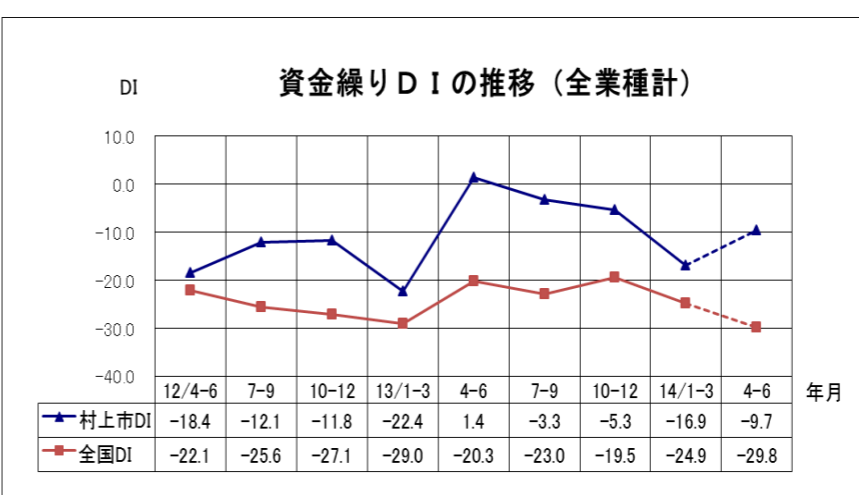
来期については、26.6ポイント低下し▲4.1となる見通し。
 〈DI内訳〉 今期 来期
 建設業 19.3 → ▲12.9
 製造業 29.5 → 11.8



今期の採算DI(全業種計)は、前期比7.7ポイント低下し、4.1となったが、前期における今期予測より、12.8ポイント上回った。前年同期比でも27.7ポイント上回っており、4期連続でプラス圏域を維持している。

全国DIは、前期比3.3ポイント低下し、▲16.9となり、低下は4期振り。

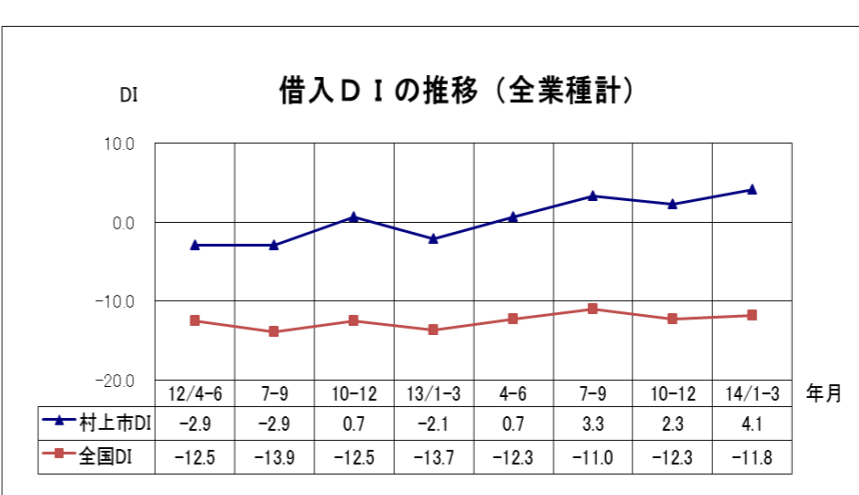
来期については、17.3ポイントの低下で▲13.2となる見通し。全国DIも8.3ポイント低下し、▲25.2となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期に比べ11.6ポイント低下し▲16.9となった。低下は3期連続だが、前年同期比では5.5ポイント上回っている。

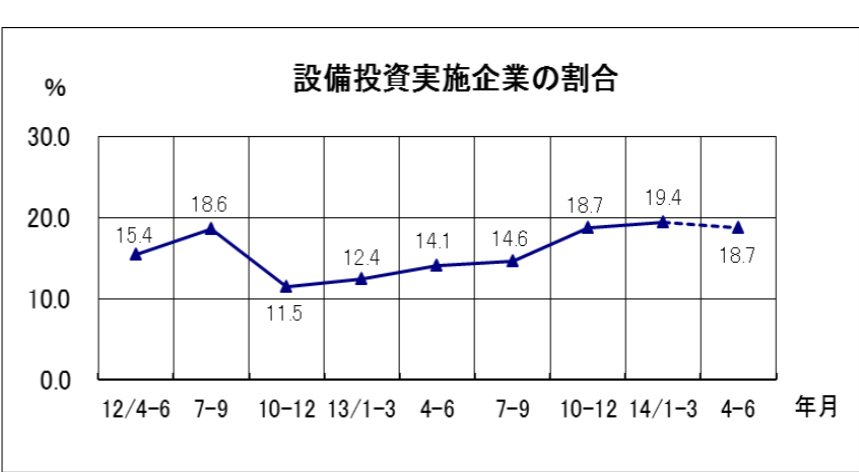
全国DIは前期比5.4ポイント低下し、▲24.9となった。

来期については、7.2ポイント上昇し、▲9.7となる見通し。全国DIは4.9ポイント低下し、▲29.8となる見通しである。



今期の借入DI(全業種計)は、前期に比べ1.8ポイント上昇し、4.1となった。水準は調査開始(08/4~6月期)以来、最高となった。

〈内訳は以下の通り〉
 「容易になった」
 前期 3.8% → 今期 7.3%
 「変わらない」
 前期 43.9% → 今期 46.0%
 「難しくなった」
 前期 1.5% → 今期 3.2%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期比0.7ポイント上昇し、19.4%となった。上昇は5期連続で、水準は調査開始以来最高となった。(09/7~9月期の19.4%と同水準)

来期に設備投資を予定している企業の割合は、0.7ポイント低下し18.7%となる見通しである。

